

るところです」

なるほど、この仲居さんたちも、そのよ  
うな不利な条件を荷負つたまま、おいそ  
れと、狭い社会の門をくぐり、自分の生  
活のたて直しをするわけにはいかないの  
だ。廃業と同時に建物一切を売り払い、  
さ、やかな個人の家を構えたいという人  
の中には、身寄りや行先をもたない老齢  
の仲居さんを引き取つて、終生その面倒  
をみるというケースは二、三あることだ  
が、すべてがそうでないところに大きな  
悩みがある。

### 或る特飲店主の話

では、こゝら辺りで、二本木町を離れ  
坪井川筋を歩きながら、石塘一帯に足を  
運ぶと、石塘堰の改修工事がいま盛んに  
行われているところであつた。道行く人  
々が、白川橋の際にもたれかゝるように  
その工事の有様をさまざま興味をもつ  
て眺めている。

この一帯は、かつての水害で大きな被  
害をうけたところであるが、いま沿道の  
両側には軒並にバラックが建ち、この中  
に在る三十一軒の特飲店では、まだ期限  
いつばいの営業が七十名の従業員を抱え  
たま、続けられていた。しかし、都市計  
画に基く区画整理を前にして、家屋の立  
退きが要求されており、ボチボチとその  
自主的な動きが始まろうとするところへ  
追いかけて来たのが、十六日以降の営業  
取締りであつたわけだ。法の発効前ギリ

ギリでの、三月いつばいの営業をすつか  
り当てこんでいた業者や従業員の人々も  
どうやら、泣き面に蜂という面持であつ  
た。

このような状況の中で、ある組合長さ  
んを訪ねてみると、小ざつぱりした居間  
に、その丹前姿を現わし、幅広い長火鉢  
の前でくつろぎながら愛想のよい話をし  
てくれた。前歴がかつての村長さんであ  
ることに、少々驚きを覚えながら、その  
卒直な心境に聴診器をあて、みると、  
「……実は、私たち業者や子どもたちも  
二十二日を期していつせいに気持よく廃  
めることを、当局の了解の上で決めてい  
たんですが、そうした矢先に一週間も早  
い十六日に正式なハナシが決つたとお違  
しがありましたので、全く困惑した次第  
です。もともと私たちのやつている商売  
が決して好ましいものとは考えてもいま  
せんでしたから、廃めるときには、必ら  
ず自主的にやろうと誓ひあつていたわけ  
なんです。そこで、出てゆく子どもたち  
の銭別という意味で、十五日から二十一  
日までの収入全部を、それに充てること  
にしていましたが、いまとなつてはそれ  
が先づダメになつてしまつたわけです  
よ。なげなしの財布をふところに、こゝ  
を出てゆく子どもたちの姿を、私は親が  
わりとして、黙つて見るに忍びなかつた  
わけです。もつとも、子どもたちに貸し  
てあつた、たんす、ふとん、鏡台などは  
残らず記念品として贈ることになっている

わけですが……」  
と、懐手をするその組合長さんの表情に  
は、何か釈然としない複雑なものがよみ  
がえつていた。

### 中年の従業員の場合

かたわらで、お父さんとの話を黙つ  
てきいていたある中年の従業員は、  
「いまお父さんのおつしやつたことは、  
私たちの心境そのまゝなんです。私は、  
女子商業を出て、いま子供を二人抱えて  
いますけど、病弱な母に引きとつて貰つ  
ているので、月々一万二千元を家に送つ  
ていたのです。こんど長男が高校へ進学  
するとなると、どんなにきりつめても、  
生活費はいまゝでを下るとは思われませ  
んし、こゝを出るときが無一文では、ほ  
んと心に細かい気持でいつばいなんです。  
職場と云つても、この齢の三十七、八で  
は、どこからも雇ひ手がないと考えた方  
が本当のようですし、何よりも世間の白  
い眼を意識した場合の自分を思うとたま  
らない気がしてきますね。しかし、こゝ  
まで身を落したんですから、やはり強い  
意志で立ち上つて、子供たちにすべての  
望みをかなえてやろうと考えてはいま  
す。差し当り下宿でも探し出して、仲居  
の口があつたらと、気持をかためてい  
わけなんですよ」

こゝで感じられるものは、そのような  
数多くの従業員たちが、正常な社会の眼  
に対して意識する一種のコンプレックス

であり、危惧であろうと思われる。そこ  
で、彼女等の過去をいまさらけに突きつめ  
る必要はないが、その苦しみを克服する  
には、やはり、当時の意に決した勇氣と  
忍耐とを、ふた、び今日においてふり  
起す自覚を持つことが大切であると云え  
よう。しかも、このたびの人間への解放  
は、あくまでも法律を伴つた他意的なと  
ころに起因しているのが問題であつて、  
社会の眼がそこに了解点をもつていると  
ころに、いつその彼女たちの努力が望  
まれるわけである。

### むすび

このような人々の更生指導と職業あつ  
せんのため、昨年九月県の社会課内に設  
けられた県の婦人相談所は、今年二月坪  
井の明るくしようしやな建物に移り、遠  
慮のいらぬ相談を親切に待ちうけて居  
り、少しでも多くの女性を社会に送りこ  
もうと張切つていっているわけである。

さて、売春防止法の施行を契機として  
業者の職業資金の融資あつせんをはじめ  
従業員の新生など、全国各地でも、その  
実情に応じた適切な措置を一つ一つ講じ  
つ、社会不安の解消とバックアップに  
努力しているものであり、それらの人々が  
こんどの国法を是として、明るい社会進  
出の態勢に協力することを希いつ、こ  
のルポを閉じよう。

# 新しき出発の門

## 熊本県婦人相談所



三月十五日を期して、売春業は一齐に転廃業。その後にく  
る従業員の新問題は何と云つても大きな、また難かしい問  
題である。だがなかには県の婦人相談所の手で立派に更生し  
ている人も少くない。

### 旅館の女中さん

「何しろ忙しうしてですね。もう一生  
懸命働いています。御主人や同僚の女中  
さん達もホンニようして下さいます。今  
朝も、ようがマガダスと御主人からほめら  
れました。婦人相談所に駆け込んできて  
よかつたと思うとります。ホンニ一カ月  
前までの事は悪夢のようです。サ、饅頭  
ばたべて下さい。私の感謝の気持ちで思っ  
て……さ、どうぞ。」

のどかな小春日和。婦人相談所の世話  
で、二週間程前に熊本市内のR旅館の下  
女中として就職して行つたT子さんが、  
饅頭を抱えきれない程持つてお礼に來て  
いた。

所長さんはじめ職員が、わが事よろ  
う喜んで饅頭を頬張るのを眺めて、T子  
さんは涙をポロポロ流した。……

A郡S町の特飲店に勤めていたT子さ  
んは、まだうすら寒い三月のはじめ、着  
のみ着のまゝ熊本まで飛び出して来た。  
行く宛もないまゝ、警察で聞いた内坪井  
町の熊本県婦人相談所の玄関にしよんぼ  
り立つたのが三月六日だつた。相談所  
は一時保護の部屋に泊めて、職業安定所  
と連けいをとりつ、就職先を探して歩い

た。それから十一日「しつかり更生し  
ようという強い意志があれば、喜んで備  
いましょう。」と義侠心に富むR旅館のこ  
主人は所長の頼みを引受けて呉れた。

T子さんは再び着のみ着まゝ、――だが  
今度は胸の中に明るい希望を一杯抱いて  
早春の風の中をふり返りふり返り出て行  
つたものだつた。

### サイターの結婚式

又こんな事もあつた。紅灯の消えよう  
とする直前、飛呂敷包み一つを抱えて相  
談に來たS子さんは、前借金が十二万円  
もあり、これが三月十五日以降は棒引き  
になるといふ事もしらずに悩んでいた。  
「お客さんが、とにかく婦人相談所に相

## 元従業員「よろず相談」承り……

### 婦人相談所は待っている……

これらはほんの一例であるが、婦人相  
談所はこうして売春防止法によつて自由  
の身になつた婦人達や、これからヤミ売  
春に転落のおそれのある人々の相談相手  
として親身になつて更生へのお世話を統

談に行つてごらんとすゝめなさいたので  
何とかお願いします。」と泣かんばかり  
前借金のために、結婚を誓ひ合つた人と  
も一緒になれないのだという。早速樓主  
と交渉して、前借金を棒引にして貰つ  
た。又、結婚を誓ひ合つたという会社勤  
めの青年にも会つた。

「酒もタバコものまない実におとなし  
い、いい青年でしたよ。」と所長さんはい  
う。

職員達は金を出し合せて結婚式を挙げ  
てやろうという事になつた。酒のない、  
サイターの婚礼。場所は相談所の二階の  
和室。だが新郎新婦にとつてはこの部屋  
は、豪華な料亭にも増して感慨深いもの  
があつたであらう。

売春防止県民協議会からはアルパムと  
夫婦湯呑み茶碗が贈られ、前の樓主さん  
も「それは嬉しい事です。」と千円包んで  
呉れた。今、S子さんは間借り生活なが  
ら、二人で新しい生活を築きあげようと  
懸命である。

熊本市役所前から坪井川に沿つてさか  
のぼつてゆくと、藤崎宮から上熊本へ通  
ずる電車道路との四ツ角に建つてい  
るくすまーとな建物が熊本婦人相談所